

読書感想文募集の案内

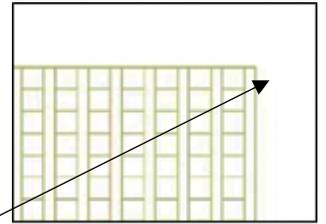


夏休み、じっくりと本を読み、感動したこと、考えたことを感想文にしてみませんか。
 感じたことを文章にすることで、自分の考えが深まります。書くことで、筆者の言いたかったことに思いをめぐらせたり、わからなかったことを解決したりできるからです。また、自分のそのときの感動を記録しておくことができます。大きくなって、読み返すと、そのときの「感動した自分」に出会うことができ、「このときは、こんなことを考えていたのか。」と、自分の成長をふり返ることができます。
 さあ、君も、読書感想文にチャレンジ!!



1. 対象図書

- ①自由読書 自由に選んだ図書（フィクション、ノンフィクションを問いません。）
 - ②課題読書 課題図書一覧から選ぶ。
- *①, ②それぞれに、一人1編ずつ応募できます。



2. 用紙、字数

- 1, 2年・・・ 本文400字詰め原稿用紙2枚以内
- 3～6年・・・ 本文400字詰め原稿用紙3枚以内

*1行目から本文を書きます。自由か課題、題、学校名、学年、氏名は欄外に書いてください。
 （題名、学校名、氏名は、字数に数えません。）

*できるだけ最後の一行まで書きましょう。自分の考えを字数いっぱい表現できるといいですね。

3. 書き進め方

「どのように書いたらいいのかわからない？」という人は参考にしてください。

パソコンで『青少年読書感想文全国コンクール』と検索すると、募集要項や優秀作品などが掲載されています。

①本を選びましょう。

自分にあった心動かされる本を選びましょう。背伸びして難しい本を選ばなくても 思いっきり楽しめたり、新しいことを教えられたりする自分にとっての「良い本」を見つけましょう。迷ったら、自分のことをよく知っている人や（例えば家族、友達、先生など）、図書館の先生などに相談しましょう。

②心に残ったことを見つけましょう。

1冊の中で、3か所ほど、心に残ったことを選びましょう。読みながら、感動したところに付箋をはっていき、後で読み直して選ぶのもいいでしょう。

感じたこと、考えたことを忘れないうちにメモしておくといいでしょう。

③なぜ、心に残ったのか考えながら、書き進めましょう。

②で選んだことを具体的に書いていきます。なぜ、心に残ったのか考えるとき、自分の今までの体験や生き方、考え方と比べるといろいろなことが見えてきます。自分の心の変化が書き表せると読む人にも感動を与えるでしょう。

特に、心に残った言葉を「」（カギかっこ）で 引用（ほかの人の言葉を、自分の文章や話の中で使うこと）するのもいいでしょう。

④題を考えよう。

自分の感想文を読み返し、自分が一番言いたいこと、感動したことの中心となる言葉を考えて題名にするといいでしょう。人が読みたくなるような題名がいいですね。

4. 提出の仕方 → 応募票（児童に配布）に必要事項を記入し、

読み直して、間違いがないか確かめたら、**9月1日（月）**に担任の先生に提出しましょう。